

ベナンの風便り

2008年12月号

日本の今年の冬はとても寒いという噂を耳にしましたが、いかがお過ごしですか？先日クリスマスがありました、暑い中でのクリスマスは何だか慣れてないせいもあるのか変な気分でした。日本にいる時には思いもしませんでした、四季があるということは本当に幸せなことなのかもしれませんね。

さて、任地であるポルトノボに赴任してから3ヶ月間は移動することが禁止されていたのですが、今はそれが解禁となってベナンのいろいろな場所を訪れることができるようになりました。先日ウィダという町を訪れたのですが、ここはかつて奴隷貿易が盛んだった町。今回はウィダ、そしてそこで行われていた奴隷貿易について紹介します。

ウィダ、そして奴隷貿易

みなさんは「奴隷貿易」という言葉を聞いたことがありますか？15世紀から19世紀頃まで、アフリカ大陸から1000万とも1500万とも言われるアフリカ人が奴隷として輸出されました。ベナン共和国があるギニア湾沿岸はかつて奴隷貿易が盛んにおこなわれていた場所で、「奴隷海岸」と呼ばれていました。

当時奴隷は同じ黒人である現地人によって、ヨーロッパ人と武器などと交換されていました。例えば大砲1砲は男性15人、女性21人と交換されていました。こうして現地民族は武力をつけたのです。

交換された奴隷たちは船にぎゅうぎゅう詰めに積み込まれ、数か月にもおよぶ長い船旅を余儀なくされます。もちろん衛生状態は最悪。航海中にはたくさんの奴隷たちが病気にかかり、息を引き取った奴隷たちは海に捨てられました。

奴隷の行先は南北アメリカやカリブ海地域。ヨーロッパ人はプランテーション労働力として奴隷を売却して、そこで砂糖や綿花などの植民地産品を購入しました。

これが「奴隷貿易」（三角貿易）と呼ばれているものです。



奴隷競売広場跡。ここで奴隷が値打ちのない品物と交換されたりしていた。

奴隷競売広場から奴隷たちが積み込まれた海岸までの約4kmの道のり。当時のことを想像しながら歩きましたが、積み込まれる前に命を落としてしまう奴隷もいたらしく、私の想像よりはるかに悲惨な状態だったのだと思います。

ウィダの町を歩いていると、かつて奴隷貿易が行われていたとは思えないほど穏やかな人々と出会うことができます。しかしながら町中や奴隷の道には、当時のことを忘れてはいけなとたくさんのモニュメントや像を見ることができます。

この地でかつて行われていた悲惨な過去。だからといって現実から目を背けてもいけません。歴史の重みを知ることだけでも大切なことで、意義のあること。みなさんにとっては遠い国での過去のこともかもしれませんが、同じ人間がしてしまった過ちとして、胸に刻んでおいてほしいと思います。

（「AMISTAD」という映画を観てもらおうと、当時の悲惨な様子が伝わると思います。舞台は違いますが、主演はベナン人です。）



奴隷の道。普通の状態歩いて2時間近くかかる道のり。奴隷は手かせ、足かせをされた状態で、また鞭などで叩かれながら海岸まで歩かされた。



忘却の樹跡。男性は9回、女性は7回この木の周りをまわらされる。そうすることで、過去の記憶や自分の起源、そしてアイデンティティさえも失ってしまい、抵抗や反乱が起こらないようにされた。しかしながら現実はとてもそうだったとは思えない。



帰らざる門。奴隷たちが船積みされていた場所。ここを通過したら、もう二度とこの地に帰ってこられなかった。

ブログ更新中

ベナンの風：<http://benin.seesaa.net/>